

基 調 報 告

★将来への希望を奪うアベノミクス

安倍総理は昨年9月、「新三本の矢」と称する政策目標を発表しました。2014年に発表した「三本の矢」の検証もしないまま「アベノミクスによる成長のエンジンをさらにふかし、その果実を国民一人ひとりの安心、将来の夢や希望に大胆に投資する」として力強く推進するということです。一方で、政府の「骨太の方針2015」は、社会保障費の伸びを今後3年間、毎年5000億円以内に抑えるとしています。そうなれば、年金・医療・介護などの社会保障給付はさらに減額され、負担は増え、国民一人一人の安心、将来への希望などは夢のまた夢、庶民の暮らしは苦しくなるばかりです。多くの国民にとって、「アベノミクスによる成長のエンジン」など実感できるものは何もないのです。

★先細りさせられる社会保障制度

もともとアベノミクスは、強い者をより強く、儲かっている企業をさらに儲けさせるための政策です。そのため安倍総理は「日本を企業が世界で一番活動しやすい国にする」として、聖域なき規制改革を推し進め、雇用・労働法制を緩和・改悪し、法人税の実効税率を引下げるなど、産業・企業の活動に障害となるものを一つ一つ取り除いているのです。その結果、労働者の実質賃金は5年連続で前年を下回り、年金・医療・介護を柱とする社会保障制度がじりじりと先細りさせられ、庶民の生活は疲弊していても、大企業は史上最高益をあげているのです。このように、国民の暮らしを置き去りにしたアベノミクス、経済最優先の政策は明らかに方向が間違っているのです。

★安心して暮らせる社会のために

そんな中で本年7月に行われた参議院議員選挙は、退職者連合にとって極めて残念な結果に終わりました。連合候補12人全員の当選を果たすことができず、野党4党協力による32の選挙区でも11人の当選にとどまり、自・公与党の改選過半数獲得阻止はおろか、改憲勢力を3分の2以下に抑え込むこともできませんでした。退職者連合は、社会保障制度を先細りさせ、勤労国民、わけても高齢者・社会的弱者を不安に陥れ、民主主義、立憲主義、平和主義をないがしろにする安倍政権の政治姿勢を正すために、この選挙結果をもって「政治の流れを変える闘い」を終わらせるわけにはいきません。勤労国民の暮らしを守り、誰もが生き生きと安心して暮らせる社会にするために、連合と力を合わせ、地道ではあっても粘り強く闘っていかなければなりません。

以上